

# 令和元年度 第5期大和市地域福祉計画評価シート

基本目標Ⅰ 一人ひとりに支援が行き届き、誰もが自分らしく安心して暮らせるまち

【個別目標Ⅰ】 支援が必要な人たちを把握し、適切な支援につなげます

《主な取り組み》

- ①各種訪問相談を実施し、アウトリーチの強化に努めます。
- ②見守りのネットワークを充実させ、支援を必要とする人を見逃さないよう努めます。
- ③誰もが住み慣れた地域で自立した生活が送れるよう各種自立支援策を推進します。
- ④生活困窮者自立支援法に基づく各種支援について、  
関係機関と連携を図りながら進めます。

◎・・・特に大きな成果が得られた  
○・・・例年並みの成果が得られた  
△・・・例年ほどの成果はなかった  
×・・・成果がなかった  
―・・・未実施

▼令和元年度取り組み状況について

《成果を計る主な指標》

指標の項目	担当課	計画策定時 2017年度	中間目標値 2021年度	最終目標値 2023年度	実績値 2019年度	事業所管 課による 評価
①乳児家庭全戸訪問事業による訪問率	すくすく子育て課	99.6%	100%	100%	95.3%	○
②「地域の見守りと安心できるまちづくりに関する協定」の締結事業者数（累計）	人生100年推進課	19事業所	25事業所	27事業所	20事業所	○
③生活困窮者自立支援事業の支援実施回数（延べ）	生活援護課	2,356回	2,400回	2,500回	2,652回	○

《参考指標》

指標の項目	担当課	計画策定時 2017年度	実績値 2019年度	事業所管 課による 評価
民生委員児童委員 訪問件数	健康福祉総務課	25,211件	25,225件	◎

▼成果を計る主な指標の取り組み状況の検証について（市の考え）

①乳児家庭全戸訪問事業による訪問率

低出生体重による入院や里帰りにより長期間自宅に戻らなかったケースがありましたが、概ね対象の家庭への訪問を実施できました。また、訪問の同意が得られなかった家庭が一定数ありましたが、全対象家庭を把握し、支援の必要な場合は関係機関と連携し対応しました。

②「地域の見守りと安心できるまちづくりに関する協定」の締結事業者数（累計）

新たに1事業所と協定を結ぶことができ、提携事業者数は累計で20事業所となりました。今後は既に協定を締結している事業者の同業他社に声かけするなど、更に締結事業者を拡大していきます。

③生活困窮者自立支援事業の支援実施回数（延べ）

相談窓口業務を市社会福祉協議会に委託し、経済的に困窮している人が自立した生活を維持できるようきめ細かな支援を行いました。

▼参考指標の取り組み状況の検証について（市の考え）

民生委員児童委員 訪問件数

民生委員児童委員が、市民の生活実態に応じた訪問活動を活発に行うことで、市民に安心感を与えることができています。また、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、訪問活動を電話による活動に変更するなどし、見守りが途切れることがないように取り組みました。

▼総括（市の考え）

- ・民生委員児童委員による訪問件数など訪問活動の件数は増加傾向にあります。また、乳児家庭全戸訪問事業の訪問率も目標値には届かないものの、訪問方法等を工夫し、高い水準を維持しています。潜在的な支援ニーズの早期発見・把握のためにも、引き続き訪問活動を進めていく必要があります。
- ・生活困窮者自立支援事業の支援回数が増加しています。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、生活に困窮する方からの相談件数は増加が見込まれることから、社会福祉協議会とより緊密に連携しながら、支援を行う必要があります。

▼社会福祉審議会意見

乳児家庭全戸訪問事業に関しては、訪問の同意を得られない家庭もあるが、なお一層の努力をされたい。生活困窮者自立支援事業についても、一層努力することを期待したい。

# 令和元年度 第5期大和市地域福祉計画評価シート

基本目標1 一人ひとりに支援が行き届き、誰もが自分らしく安心して暮らせるまち

【個別目標2】 相談体制を整え情報提供を充実します

《主な取り組み》

- ①地域住民に身近な圏域での相談や電話による相談など、利用しやすい体制を整えます。
- ②専門的な相談から総合的な相談までできる質の高い相談体制を整えます。
- ③福祉に関する情報を広く地域住民に届けます。

◎・・・特に大きな成果が得られた  
○・・・例年並みの成果が得られた  
△・・・例年ほどの成果はなかった  
×・・・成果がなかった  
—・・・未実施

▼令和元年度取り組み状況について

《成果を計る主な指標》

指標の項目	担当課	計画策定時 2017年度	中間目標値 2021年度	最終目標値 2023年度	実績値 2019年度	事業所管 課による 評価
①やまと24時間健康相談における入電件数	健康づくり推進課	18,068件	18,500件	18,500件	17,925件	○
②屋内こども広場及び子育て支援施設での子育て相談件数	ほいく課	699件	1,162件	1,375件	1,355件	◎
③ひとり親家庭等からの相談件数	こども総務課	1,524件	1,500件	1,500件	2,176件	○
④子育てサロン案内「ほっとする空間」の配架箇所数	健康福祉総務課	95箇所	105箇所	110箇所	100箇所	○

《参考指標》

指標の項目	担当課	計画策定時 2017年度	実績値 2019年度	事業所管 課による 評価
終活支援に関する相談件数	健康福祉総務課	— ※事業は平成30年6月に リニューアル	219件	○

▼成果を計る主な指標の取り組み状況の検証について（市の考え）

①やまと24時間健康相談における入電件数

入電件数を下げる要因としては、明確な要因は不明ですが、他の相談窓口を利用している等が考えられます。今後、量的だけでなく質的な評価も含め検討、実施していきます。

②屋内こども広場及び子育て支援施設での子育て相談件数

相談件数は増加傾向にあり、子育て世代が気軽に相談できる場として、需要が高まりつつあります。

③ひとり親家庭等からの相談件数

母子・父子自立支援員が主体となって、就労や子どもの教育関係、養育費等の多岐にわたる相談等に対応し、ひとり親家庭等への支援の充実を図っています。

④子育てサロン案内「ほっとする空間」の配架箇所数

市民生委員児童委員協議会が作成する「ほっとする空間」を4ヶ月健診時や保育所等に広く配架しました。配架場所の検討も含め、より多くの子育て世代に情報が届くよう、配架箇所数の増加に努めます。

▼参考指標の取り組み状況の検証について（市の考え）

終活支援に関する相談件数

コンシェルジュ（わたしの終活コンシェルジュ）による個別相談や講演・講座などの機会を通じて、ひとり暮らし等の市民の終活に関するさまざまな疑問や不安が整理され、精神的な不安の解消につながっています。近年、終活に関する情報は増え、葬儀や納骨などの選択肢も多様になっています。このような中で、ひとり暮らし等の高齢の方々が抱える終活に関する不安やニーズを把握して、不安を解消できる施策を積極的に展開して行く必要があります。

▼総括（市の考え）

・全体的に市民からの相談件数は計画策定時と比較し増加傾向にあります。こうした状況に対応するため専門知識をもった相談員の配置や利用しやすい環境の整備に努めています。

・近年、相談内容は複雑化・多様化の傾向にあります。終活支援に関する相談窓口やひきこもりの方に対応できる相談窓口には開設当初から多くの相談が寄せられています。今後も市民一人ひとりに寄り添った、より納得が得られる相談支援を行う必要があります。

▼社会福祉審議会意見

相談支援に関しては、量的だけでなく質的な評価も含め検討、実施されたい。

# 令和元年度 第5期大和市地域福祉計画評価シート

基本目標1 一人ひとりに支援が行き届き、誰もが自分らしく安心して暮らせるまち

【個別目標3】 包括的な支援体制を整えます

《主な取り組み》

- ①支援を必要とする人やその家族の状況を把握しながら切れ目のない適切なサービスを提供します
- ②分野横断的な課題等にも対応ができるよう、  
関係機関等との連絡会議を開催し、情報共有・連携の強化を図ります。

◎・・・特に大きな成果が得られた  
○・・・例年並みの成果が得られた  
△・・・例年ほどの成果はなかった  
×・・・成果がなかった  
—・・・未実施

▼令和元年度取り組み状況について

《成果を計る主な指標》

指標の項目	担当課	計画策定時 2017年度	中間目標値 2021年度	最終目標値 2023年度	実績値 2019年度	事業所管 課による 評価
①個別支援会議の開催回数	すくすく子育て課	114回	120回	120回	133回	○
②市指定事業所の実地指導 件数割合	介護保険課	33.3%	33.3%	33.3%	35.2%	○
③地域ケア会議の開催回数	人生100年推進課	70回	72回	72回	44回	△
④ケアマネジャーへの支援 件数	人生100年推進課	2,479件	3,071件	3,400件	2,644件	○

《参考指標》

指標の項目	担当課	計画策定時 2017年度	実績値 2019年度	事業所管 課による 評価
こもりびと支援に関する相談受付 件数	健康福祉総務課	— ※事業開始は令和元年10月	167件	○

▼成果を計る主な指標の取り組み状況の検証について（市の考え）

①個別支援会議の開催回数

必要に応じて個別ケース検討会議を開催し、情報や支援方針を共有しました。今後も、関係機関と連携を強化し、適切な支援に努めます。

②市指定事業所の実地指導件数割合

介護を必要とする方が介護保険サービスを満足し、安心して利用することができるように市指定事業所の質の向上を図ることができました。

③地域ケア会議の開催回数

新型コロナウイルス感染症蔓延等により、予定回数が実施できなかったため、回数が減少しています。

④ケアマネジャーへの支援件数

包括の体制充実により、増加するケアマネジャーからの支援要請に応えることができています。

▼参考指標の取り組み状況の検証について（市の考え）

こもりびと支援に関する相談受付件数

ひきこもりの方に対応できる窓口の設置により、当事者本人や家族が適切な社会資源に結び付くことができるきっかけとなりました。今後は、ひきこもり当事者の「居場所づくり」や、「家族の集い」などの場を提供することで、社会的な孤立の解消に向けた継続的な取り組みが急がれます。

▼総括（市の考え）

- ・複数の福祉課題を抱えた人にも対応できるよう、関係各課や関係機関と連携しながら、それぞれの世帯状況に合わせた支援を実施しました。
- ・障害者自立支援協議会や地域育児センター連絡会など、地域や関係機関が連携し地域課題や情報の共有を図る会議が定期的で開催されています。

▼社会福祉審議会意見

利用する側が便利になる分野を超えた包括的支援体制のシステムづくりを検討されたい。

# 令和元年度 第5期大和市地域福祉計画評価シート

基本目標1 一人ひとりに支援が行き届き、誰もが自分らしく安心して暮らせるまち

【個別目標4】 権利擁護の仕組みづくりを推進します

《主な取り組み》

①相談支援の強化や問題を早期に共有できるネットワークづくりを進め、  
高齢者、障がい者、子ども等への虐待防止に取り組みます。

②法人後見や市民後見等の仕組みづくりや市長申立等の  
利用補助を行うとともに、成年後見制度利用促進基本  
方針に沿って、成年後見制度の普及促進を図ります。

◎・・・特に大きな成果が得られた  
○・・・例年並みの成果が得られた  
△・・・例年ほどの成果はなかった  
×・・・成果がなかった  
－・・・未実施

▼令和元年度取り組み状況について

《成果を計る主な指標》

指標の項目	担当課	計画策定時 2017年度	中間目標値 2021年度	最終目標値 2023年度	実績値 2019年度	事業所管 課による 評価
①市民後見人バンク登録者 数（累計）	健康福祉総務課		5人	10人	3人	○
②成年後見制度講演会受講 者数	人生100年推進課	61人	100人	100人	93人	○

《参考指標》

指標の項目	担当課	計画策定時 2017年度	実績値 2019年度	事業所管 課による 評価
障害者差別解消法講演会の参加者 数	障がい福祉課	45人	64人	○

▼成果を計る主な指標の取り組み状況の検証について（市の考え）

①市民後見人バンク登録者数（累計）

第Ⅰ期市民後見人養成研修（平成30年度及び令和元年度）を修了し、3名の候補者がバンク登録されました。候補者が家庭裁判所から後見人等として選任されるまでの間、研修で習得した知識や技術の後退が懸念されるため、定期的にフォローアップ研修等を実施し、知識の更なる向上やモチベーションの維持等を図っていく必要があります。

②成年後見制度講演会受講者数

広報やまことやチラシ等による周知に努め、計画策定時と比較し、32人増（52%増）となりました。講演会と同日に専門職による個別相談会も開催し、成年後見制度の基本的な知識や申立手続きの流れ等、広く市民に情報を提供しました。

▼参考指標の取り組み状況の検証について（市の考え）

障害者差別解消法講演会の参加者数

昨年度31人から倍増となりました。市民の権利擁護や共生社会への関心の高さがうかがえます。この他、市職員を対象とした障害者差別解消法に関する研修を実施しています。引き続き、講演会などを通じ、多くの市民・職員への普及啓発を推進していきます。

▼総括（市の考え）

- ・成年後見等の市長申立てや申立費用と後見人等への報酬の助成など成年後見制度の利用を支援する制度が整っており、市長申立件数、報酬助成件数は全体的に実績が伸びています。
- ・「認知症1万人時代」に備え、成年後見制度の利用促進に向けた体制整備は課題と捉えています。今後も本市における望ましい体制整備のあり方について、弁護士や司法書士等専門職や相談支援機関の意見も聞きながら検討を進めていきます。

▼社会福祉審議会意見

市民後見人の育成については一層力をいれていただきたい。また、後見を受任する機関の増加に努められたい。

# 令和元年度 第5期大和市地域福祉計画評価シート

## 基本目標 2 一人ひとりが地域に関心をもち、お互いに支えあうまち

### 【個別目標 5】 福祉への理解と関心を高めます

#### 《主な取り組み》

- ①福祉課題に関する講演会やキャンペーン等を実施し、広く福祉を啓発します。
- ②福祉の心が培われるよう、学校等と連携し、  
体験や交流を通じた福祉教育の推進に取り組みます。
- ③社会福祉法人による地域間交流の促進等の  
取り組みを支援します。

◎・・・特に大きな成果が得られた  
○・・・例年並みの成果が得られた  
△・・・例年ほどの成果はなかった  
×・・・成果がなかった  
—・・・未実施

#### ▼令和元年度取り組み状況について

#### 《成果を計る主な指標》

指標の項目	担当課	計画策定時 2017年度	中間目標値 2021年度	最終目標値 2023年度	実績値 2019年度	事業所管 課による 評価
①自殺対策講演会受講者数	健康福祉総務課	67人	80人	80人	154人	◎
②車いすバスケットボール 体験講座実施により、生徒 の福祉への理解と関心を高 めることができたと回答し た学校の割合	健康福祉総務課		60%	90%	100%	◎

#### 《参考指標》

指標の項目	担当課	計画策定時 2017年度	実績値 2019年度	事業所管 課による 評価
認知症講演会参加人数	人生100年推進課	731人	686人	○

▼成果を計る主な指標の取り組み状況の検証について（市の考え）

①自殺対策講演会受講者数

自殺対策講演会を2回実施し、目標値を超える数の方に参加していただくことができました。また、2回のうち1回は対象を職員とし、自殺対策は全庁的な取り組みが必要であることを職員に周知することができました。引き続き、講演会を開催するにあたっては、過去に参加した受講者も含め、幅広い世代に参加していただけるよう周知活動を図ります。

②車いすバスケットボール体験講座実施により、生徒の福祉への理解と関心を高めることができたと回答した学校の割合

車いすバスケットボール体験講座は、学校や講師派遣元と連携し、情報や課題を共有しながら実施しています。共有した事柄を活かしながら長年にわたって事業を実施していることから、より充実した講座になっていると考えます。令和元年度より学校に対し効果を問うアンケートを開始したことから、学校からの意見・要望を丁寧に聞き取ることができ、更なる事業の発展が期待できると考えます。

▼参考指標の取り組み状況の検証について（市の考え）

認知症講演会参加人数

概ね例年通りの参加人数でしたが、認知症予防をテーマにしたことから、他の認知症予防関連事業への関心が高まりました。

▼総括（市の考え）

各種講演会（講座）の開催回数や参加人数は、概ね例年どおりの実績を維持しています。実績を伸ばすために、引き続き開催の周知に努めるとともに、実施時期・場所の工夫や市民の関心の高いテーマを選択するなど、内容の充実に努める必要があります。

▼社会福祉審議会意見

市民の福祉学習の充実についても進めていただきたい。障がいのある人と子ども達と一緒に過ごす体験を検討していただきたい。

# 令和元年度 第5期大和市地域福祉計画評価シート

基本目標2 一人ひとりが地域に関心を持ち、お互いに支えあうまち

【個別目標6】 福祉活動の担い手を育成し活動を支援します

《主な取り組み》

- ①市民ボランティアの育成や社会福祉協議会の活動支援を行います。
- ②市民や地域の活動団体等と連携し、誰もが地域で暮らしやすい仕組みづくりを支援します。
- ③当事者団体の活動支援を行い、同じ悩みを抱えた人同士の情報交換や地域との交流を図ります。

◎・・・特に大きな成果が得られた  
 ○・・・例年並みの成果が得られた  
 △・・・例年ほどの成果はなかった  
 ×・・・成果がなかった  
 ー・・・未実施

▼令和元年度取り組み状況について

《成果を計る主な指標》

指標の項目	担当課	計画策定時 2017年度	中間目標値 2021年度	最終目標値 2023年度	実績値 2019年度	事業所管 課による 評価
①認知症サポーター養成講座受講者数(累計)	人生100年推進課	12,079人	24,079人	30,079人	16,690人	○
②認知症サポーター育成ステップアップ講座受講者数(累計)	人生100年推進課	78人	398人	558人	202人	△
③こころサポーター養成講座受講者数(累計)	健康福祉総務課	927人	1,827人	2,287人	1,499人	◎
④あいサポーター養成講座受講者数(累計)	障がい福祉課	/	495人	825人	369人	○
⑤支援会員数(ファミリーサポートセンター事業)	すくすく子育て課	137人	149人	167人	107人	△

《参考指標》

指標の項目	担当課	計画策定時 2017年度	実績値 2019年度	事業所管 課による 評価
介護予防サポーター実数	健康づくり推進課	170人	100人	△

▼成果を計る主な指標の取り組み状況の検証について（市の考え）

①認知症サポーター養成講座受講者数(累計)

認知症の人が安心して生活することができる地域づくりのため、市民個人に加え、企業や店舗等の受講を促し、さらに受講者の増加につなげる必要があると考えます。

②認知症サポーター育成ステップアップ講座受講者数（累計）

修了者で具体的な活動を希望する人へのサポートを充実させ、受講者の増加につなげる必要があると考えます。

③こころサポーター養成講座受講者数（累計）

こころサポーター養成講座を8回、こころサポーターフォローアップ研修を1回実施し、サポーターの確保とともに、既存のサポーターに対し自殺対策に関する意識向上を図りました。引き続き講座を実施し、幅広い世代のこころサポーターを確保するよう努めます。

④あいサポーター養成講座受講者数（累計）

あいサポーター研修を10回実施し、サポーターを確保するとともに、障がい者への配慮について学べる他の研修会の案内を行うなど、積極的に情報提供も行いました。今後もサポーター数及び、サポーターの知識向上に向けて取り組んでいきます。

⑤支援会員数（ファミリーサポートセンター事業）

支援会員が高齢化により引退し、減少しています。新規会員の確保が課題と捉えています。

▼参考指標の取り組み状況の検証について（市の考え）

介護予防サポーター実数

実績が減少しているため、さらに多くの市民へ周知できるよう努めます。

▼総括（市の考え）

- ・各種サポーターの養成講座の実施や社会福祉協議会の活動支援等を通じ、ボランティアの育成や互いに支え合う地域づくりに努めました。
- ・介護予防サポーターやファミリーサポートセンター事業の支援会員のように、担い手の確保が課題となっているものがあります。

▼社会福祉審議会意見

各種サポーター養成講座の受講者のフォローアップを考えていただきたい。

# 令和元年度 第5期大和市地域福祉計画評価シート

基本目標2 一人ひとりが地域に関心をもち、お互いに支えあうまち

【個別目標7】 気軽に集える居場所や社会参加の場をつくります

《主な取り組み》

- ①だれもが気軽に集い、世代を超えた交流や専門職への相談ができる場をつくります。
- ②子どもが安心できる地域の居場所をつくります。
- ③生きがいつくりや社会参加の場をつくります。

◎・・・特に大きな成果が得られた  
 ○・・・例年並みの成果が得られた  
 △・・・例年ほどの成果はなかった  
 ×・・・成果がなかった  
 ー・・・未実施

▼令和元年度取り組み状況について

《成果を計る主な指標》

指標の項目	担当課	計画策定時 2017年度	中間目標値 2021年度	最終目標値 2023年度	実績値 2019年度	事業所管 課による 評価
①ひまわりサロン利用者数（延べ）	健康づくり推進課	11,148人	11,598人	11,830人	9,008人	△
②子ども食堂支援事業補助金の 交付対象となる子ども食堂の数	子ども・青少年課	4カ所	5カ所	6カ所	5カ所	◎

《参考指標》

指標の項目	担当課	計画策定時 2017年度	実績値 2019年度	事業所管 課による 評価
つどいの広場来場者数	子ども総務課	53,733人	59,483人	○

## ▼成果を計る主な指標の取り組み状況の検証について（市の考え）

### ①ひまわりサロン利用者数（延べ）

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため59回分中止により実績は減少しましたが、サロン中止期間においては、受託法人である大和市社会福祉協議会の職員が、サロン登録者へ自宅で行える介護予防関連のチラシ等の配布や電話による安否確認や相談等を行い、コロナ禍でのフレイル予防等の推進を図りました。

### ②こども食堂支援事業補助金の交付対象となるこども食堂の数

令和元年9月に、市内南部地域で開催するこども食堂に限定し、補助金の新規募集を行い、柳橋町域で新たに開設された「やなぎばしこども食堂」に対して補助金を交付することを決定しました。この結果、補助金交付を行っているこども食堂の数を5カ所に増加させることができました。

## ▼参考指標の取り組み状況の検証について（市の考え）

### つどいの広場来場者数

子育て親子が気軽に集え、相談ができ、子育て情報がある場として広く認知されています。平成30年8月に「こどもーるつきみ野」が市民交流拠点ポラリスへ移転し、「こどもーる中央林間」となったこともあり、利用者が増加しています。

## ▼総括（市の考え）

- ・だれもが気軽に集うことができる場は少しずつ増えており、外出機会や市民が抱える不安の解消につながっていると考えます。
- ・令和元年度については、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、多くの人が集う事業は中止となったため、全体的に実績値は減少となりました。令和2年度については、感染症をめぐる状況を注視しながら、感染症拡大防止に留意しつつ事業の再開を目指します。

## ▼社会福祉審議会意見

ひまわりサロンについて、新型コロナウイルス感染症の対応に配慮しながら今後も取り組みを進められたい。こども食堂については、実施箇所数の増加に努められたい。

# 令和元年度 第5期大和市地域福祉計画評価シート

基本目標2 一人ひとりが地域に関心を持ち、お互いに支えあうまち

【個別目標8】 地域福祉活動団体との連携をすすめます

《主な取り組み》

- ①避難行動要支援者支援制度や、災害時における要配慮者の避難支援体制の整備について  
自治会、民生委員・児童委員、地区社協など地域の支援者との連携を深め、取り組みを進めます。
- ②民生委員・児童委員が円滑に活動を行えるよう支援するとともに、担い手の確保に努めます。
- ③地域福祉の活動を行っている団体への活動支援を行い、  
地域の支え合う力を高めます。

◎・・・特に大きな成果が得られた  
○・・・例年並みの成果が得られた  
△・・・例年ほどの成果はなかった  
×・・・成果がなかった  
—・・・未実施

▼令和元年度取り組み状況について

《成果を計る主な指標》

指標の項目	担当課	計画策定時 2017年度	中間目標値 2021年度	最終目標値 2023年度	実績値 2019年度	事業所管 課による 評価
①避難行動要支援者支援制度において地域で取り組む推進メンバーを決めている自治会の割合	健康福祉総務課	53.3%	62.9%	67.7%	50.7%	○
②民生委員・児童委員充足率	健康福祉総務課	99.3%	100%	100%	94.6%	△

《参考指標》

指標の項目	担当課	計画策定時 2017年度	実績値 2019年度	事業所管 課による 評価
保護司数（大和地区会）	健康福祉総務課	44人	42人	○

### ▼成果を計る主な指標の取り組み状況の検証について（市の考え）

#### ①避難行動要支援者支援制度において地域で取り組む推進メンバーを決めている自治会の割合

実績値は例年とおおむね変わりませんでした。先行して取り組みを進める自治会が地区内で積極的に働きかけを行い、新たに取り組む自治会も現れました。また、地域では支援者不足の課題を抱えていたことから、市では名簿登載者を見直すための調査を行い、真に支援を必要とする人のみが名簿に掲載されるよう取り組みました。これにより、自治会内での関心は一層高まり、平成30年度と比べ令和元年度はより多くの自治会に対して説明会を実施することができました。

#### ②民生委員・児童委員充足率

令和元年度は一斉改選が行われ、任期満了で退任する委員が多かったため、充足率が減少しました。民生委員候補者を選出する推薦委員による推薦活動方法の見直しや、民生委員の普及啓発等、充足率向上のための検討を行っていきます。

### ▼参考指標の取り組み状況の検証について（市の考え）

#### 保護司数（大和地区会）

高齢化により定年を迎える保護司が増えていることや、若年層の担い手不足等から、更生支援活動の中心的担い手である保護司の人数は減少傾向にあります。保護司の活動拠点である「更生保護サポートセンター」の運営支援や、大和・綾瀬保護司会の活動支援を通じ、市民や関係団体の保護司に対する認知度を高める必要があります。

### ▼総括（市の考え）

- ・災害時避難行動要支援者対策事業については、引き続き名簿交換や説明会の機会をとらえ、進捗状況の把握や必要な情報提供を行い、取り組みやすい環境整備に努めます。
- ・市民生委員児童委員協議会や保護司会等の事務局事務を行いました。福祉活動団体が今後も円滑に活動ができるよう支援を行うとともに、担い手の確保に努めます。

### ▼社会福祉審議会意見

民生委員・児童委員については、民生委員のあり方や確保の方策を検討していただきたい。避難行動要支援者支援制度については、自治会との連携のもと、取り組みの推進に努めていただきたい。